

## 中国春季リーグ戦男子1部 Second stage 結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

5/7、8に山口県下関武道館において、男女1部 Second stage が開催されました。

広島大学男子の結果は、以下のとおりです。

vs 山口大学

○3-0 (25-12、25-13、25-16)

vs 島根大学

○3-0 (25-18、25-23、25-21)

vs 福山平成大学

●2-3 (18-25、25-19、14-25、27-25、12-15)

(広大バレー部 Twitter)

<https://twitter.com/hirodaiVOLLEY>

開幕週で課題となったサーブやつなぎのプレーはまだまだでしたが、First stage の経験が着実に力となっている場面が数多く見られました。山大戦や島大戦ではたくさんのメンバーが出場し、今後、練習と試合を順調に重ねていければ、非常に高いレベルで戦えるチームになる期待を持たせてくれる内容でした。

福山平成大学戦は、両センターにこそ身長差がありましたが、広大のブロックは相手側から見ても脅威となっており、リベロの樋口やライトの保坂も拾い負けせず、攻撃の選択肢が複数ある状況を、セッターの松本を中心に作っていました。

相手のジャンプサーブに嵌るか嵌らないか、が一つのポイントであったことは確かですが、ミスの数で言えば、両者大差ない印象でした。自分たちで試合を動かせるレベルにはまだありませんが、サイドアタッカーの河津と保坂は、良い意味で同じことを続けられていました。勝ちたい思いが強くなればなるほど、普段と変えてみたくなるものですが、彼らの継続力は今後もチームの土台として支えてくれそうです。

一方で、ミスの数に大差がないのに、相手に走られてしまう原因は切り替えの遅さだと感じました。相手はミスが出て、淡々と次のプレーに集中していましたが、広大はボールが落ちてからローテーション位置で次のサインが決まるまで、他チームと比べても非常に遅いです。女子で全勝中の中国学園はボールアウト中の時間の使い方が圧倒的に上手なので、連続失点を防ぐように切り替えを上手くなって欲しいと思います。

最後に、エースの稲葉は、足が攣った状態で、4セット目、5セット目のコートに立ちました。3年前の宇治田と姿が被り、4セット目は先にマッチポイントを取った相手に、正直そのまま勝って欲しいと思っていました。できるか、できないか、選手に尋ねれば誰でもできると言います。しかも、今の3年生以下は、1年間のフルシーズンを戦い抜くことがどんなことか、経験したこともありません。

今週末、2位を懸けて臨む広島経済大学戦で、今度は松本の身に起こるかもしれません。2位になれば、追いかけてくるチームはさらに強力になり、タフな試合はこれまで以上に増えるでしょう。コート上に欠かせない選手も増えてくる中で、目の前ではなく未来を見据えた判断をするためには、チームとして約束事を作らなければなりません。誰かの英断に頼るのではなく、全員で決断できるようになることが、部員数も増えて大所帯となった男子だからこそ必要だと思います。

今週末は男女1部 Final stage が行われます。  
引き続きよろしく願いいたします。